

---

# 「月曜日のせいやな」

1 工程@1 円～知的障害者の労働現場 009

千葉 晃央

---

(ここで関わるか…やめておこうか…いや  
思い切って… なやむな～???)

こんな思いが一瞬にしてめぐるときがあり  
ます。その時、一つ思うのが

(今日、○曜日やな～)

ということ。そう、曜日が判断の根拠の一部になる時があります。暦通りの勤務形態(サービス利用形態)(土日祝休み)の福祉事業所、福祉施設(通所)を想定して触れていきます。そして、知的障害者の労働現場での、各曜日の様子、曜日が持つ意味や効果を考えます。

## ■週の始まり月曜日

どんな仕事でもそうかもしれませんが、一番「緊張」があります。

前日である休日の影響を受けて利用者は来られます。「表情」「素振り」「声」に現れているのですぐにわかります。

楽しい休日だった人は、そして、その高揚した気持ちをコントロールするのが難しかったりします。高揚感がどこまでも続いて疲れていく方、いつもより気持ちが入り

すぎて頑張りすぎて転んだり、人やモノにぶつかったりする方もおられます。中には、気持ちの高まりがひよんなきっかけで不機嫌にガラリ！と変わることもあります。

## ■「たのしい」と「怒り」の共通点

人の気持ちは、陽性感情(楽しい気持ち、前向きな気持ち等)と陰性感情(悲しい気持ち、落ち込みがちな気持ち等)を両極に、その間のグラデーションの中のどこかで考えられることも多いです。ですが、「たのしい」と「怒っている」というのは気持ちが高ぶっているというところでは、同じであって、それが時折一瞬にして入れ替わることがあるようにも思います。ですが、これをその筋の人に複数尋ねたりしてきていますが、あまりそういうことは言われていないというような返答をいただくことが多いです。「一般化」するのではなく、その人の特徴ということなのかもしれませんが、それだけのように思えないのが私の実感です。どなたか教えてください。

休日が楽しかった人は、昨日のお出かけを思い出すだけで楽しいのです。

逆に、背を丸めている、目を合わせてこ

ない、すでに事業所の建物に入る前から大きな声を出していることもあり、そういった場合には休日に嫌なことがあったかもと考えます。家族にひどく注意を受けたり、知り合いに不幸があったり、自分や家族が体調を崩したり、自分が欲しいものが手に入れられなかったり、自分の食べたかったものが食べられなかったり。前の週の様子とはガラリと変わってくることもよくあります。

### ■連続性が唯一途切れる休み明け

逆にいうと、他の曜日は毎日ほぼ同じ利用者とほぼ同じ職員が顔を合わせるので、心の調子も体の調子も「連続」しています。その連続が唯一途切れるのが土曜日、日曜日などの休み明けです。

とても楽しかった話、とてもつらかった

話、どちらにしても、はやくその話を職員、友人に伝えたい、もしくは今の気持ちを表現したい。休み明けの朝は、そんな様子にあふれています。その場面がスムーズに行かなかった場合、もともとの思い、高ぶった気持ち、つまり通常とは違う気持ち（陽性・陰性とも）が背景にあるので、トラブルといわれるような出来事や行動につながることも多いです。

### ■援助職側の月曜日

このようなところは働く側である援助職側も同じです。休日をどう過ごしたのかに影響を受けることも多いです。

またもう一つ、職場に対する援助職の思いもありますよね。この対人援助学マガジンに連載中の団遊さんの経営する会社のキャッチフレーズに「月曜日が楽しみな会社」というのがありました。援助職にとっても



「月曜日が楽しみな職場」になっているのかというところですか。そういう職場をそういう事業所を作ることができているかです。それも利用者が思う「月曜日が楽しみな施設」になるためにも大いに大事なことのひとつのように思います。

とはいえ、仕事を頑張ろう、仕事が楽しみにしても、心の高ぶり、緊張があるのがこの月曜日ですね。利用者も援助職も共通です。

### ■月曜日の実習生

事業所では大学生等の保育、社会福祉士、教員免許の実習を受け入れています。そのスタートが月曜日ということも多いです。ストレンジャーに対する反応は心理学でも定番ですが、施設でも同じです。多くの利用者が影響を受けます。若い女性には男性陣が、イケメンには女性陣がなど、福祉業界に限らず、どこでも同じです。ですが、その影響は結構大きいこともあります。

### ■作業の中心！火・水・木！

この3日間が一番作業の中心になります。この一週間がどんな様子かがみえてきます。水曜日、木曜日には、この週末までの作業の段取りを考えながら、作業をすすめます。週末に納期があれば、それを逆算して、時には今のうちに残業の準備、作業をする人の増員などの準備、対応をしなければなりません。そのためには、施設全体での、各作業室での人員の調整（利用者、職員ともに）を行わなくてはなりません。

知的障害者の労働現場では、これまでも触れてきたとおり、ロット（作業量、注文量）と納期に応えることができるかが勝負

です。そのため、このあたりの柔軟で適正な判断が職員には求められます。また、その判断に基づいて、全体がすぐに必要な体制に変更できる組織を作ることができているかも重要なポイントです。

### ■週末の金曜日

月曜日の次にいろいろある曜日です。まず、週末までの作業が忙しいという点です。職員も、利用者も作業をあげるのに一生懸命になります。時には、急な注文もあります。それにもできる限りこたえていかなくてはならないので、作業的には忙しくなることが多いです。

その忙しさとともに、利用者の方への支援を行っていきます。その利用者さんは週末の予定が気になりだします。友達には予定があって、私にはないということで気持ちが動いて、行動に出てしまうこともあります。

職員も今週を無事に乗り切りたいという思いがあります。事故やトラブルはもちろん回避したいです。利用者が楽しみにしている週末の予定を台無しにしたくないというのもよぎります。

親を安全基地、エネルギーの補給基地に例える話は、発達心理学等でよくある例えです。土曜日と日曜日は、その補給の時のように思います。ですので、その補給基地を意識しながらの支援が金曜日はあるように思います。

- ・補給基地があるから、もうひと踏ん張り！チャンスだ！
- ・補給基地まで、ひとまず安全に！無理せずに、次のタイミングで！

この両方がいえると思います。その利用者の特徴、支援目標の中での現在の進み具合等によって、このどちらかになるかは変わってきます。これが今回の連載の冒頭での援助職の思考です。

## ■「月曜日のせい！」

調子が悪いのを曜日にするのもよくあります。調子が悪いのは、自分が悪いこともあって、それもわかっているけど、そこに直面するのは、今はいや…。そういう時に悪者さがし、原因探しをするとつらいものです。深く考える、真実を追求する、正しいことをするよりも、今から頑張れることを重要視すると「月曜日が悪いねん！」というのは効果があることがあります。マイケル・ホワイトが提唱した「外在化」と説明できるのではと思います。

たとえば、月曜日に調子が悪いときは、

職員：

「月曜日が悪いんちゃうかな。月曜日やから、調子が悪くても、それがいつも通りやし、いいやん！」

「そっかいつも通りやん。」

自分を責めている人にも

「俺が悪いから…」

「ちゃう！ちゃう！月曜日が悪いねんで～」

「それもあるな～」

他罰的な人にも

「アイツが悪いねん！」

「えらい怒っているやん、金曜日が悪いんちゃう！」

「…そ、そ、そういえば今日、金曜日やな」

こういった自分のせい、ある人のせい、という犯人探しをせず、そのおこっていること自体の意味付けを変えることで気持ち切り替わることもよくあります。(リラベリング、リフレーミングですね) このように、論理的な説明、正しい説明よりも、切り替わるきっかけとしての効果が大切な時もあります。もちろん、それだけでは不十分ということもあります。ただ、こっちの見方があると幅ができます。

先日、大リーグの斉藤隆投手が言っていました。チームメイトが「Today is new day.」

(今日は新しい日だ) と声をかえてくれることに救われると。よく似ていると感じました。

(写真：橋本 総子)

